

デニム産地 魅力知って

福山市が関連企業巡るツアー

ジーンズの素材となるデニムの産地として知られる福山市の関連企業をめぐる「デニムツアー」が22日にあり、公募に応じた学生やアパレル関係者ら14人が参加した。市が産地の存在をアピールしようと初めて企画した。



備後地域では江戸時代から綿花が栽培され、緋は日本三大産地に数えられるなど繊維業がもともと盛ん。1970年ごろから、デニムへの参入が増え、隣接する岡山県井原市と合わせた生地の生産量は国内の大半を占めるとされる。

参加者はこの日午前、市役所からバスで出発。まず紡績から染色、織布、整理加工まで一貫して生産する「カイハラ」を訪問。担当者から「綿はいろいろな産地があり、ブレンドで品質を保つ工夫をしている」などと説明を受けた。

⑤生地模様を付ける工程を見学する参加者ら
⑥デニムを使ったジーンズなどの製品を手にする参加者ら
石高原町のカイハラ三和工場



午後には染色を主にする「山陽染工」で染料のインディゴで生地を染めたり、薬剤を使った色抜きで柄を付けたりする工程を見学。テキスタイル(生地)の企画・販売を手がける「菱友

被爆桜2世を植樹

広島特別支援学校



植樹を終え、苗木を中央に記念撮影に臨む生徒ら＝広島市南区

広島市立広島特別支援学校(同市南区、中尾秀行校長)で被爆桜2世の植樹式があった。植えたのは、爆心地から約2キロの安田女子高(同市南区)で被爆したソメイヨシノから接ぎ木した苗木で、同高が寄贈。職業コース2、3年の生徒と

小学部の児童計約50人や保護者らが参加し、木の健や

「商事」も訪れた。岡山県倉敷市から参加した、同市立短期大学服飾美術学科の乃美颯太さん(19)は、将来ジーンズ関連の起業を目指している。「工場が巨大で、温度管理もしっかりしていて驚いた。綿から糸に変わる工程などジーンズの原点とも言える現場を見られて、勉強になった」という。

市は3月16日にも、「坂本デニム」、「篠原テキスタイル」、「四川」の3社を訪れるツアーを予定し、参加者を募集している。無料で、応募多数の場合は抽選。締め切りは同9日で、問い合わせは市産業振興課(084・928・1039)。(天野剛志)

木芯桐塑布紙貼「しあわせの時」

奥富久枝＝広島市

平和記念資料館本館(広島市中区)で続く耐震・リニューアル工事のため設置された塀に22日、工期や趣旨、完成予想図などの説明表示が設置された。市平

平和資料館工事 説明表示を設置

平和記念資料館本館(広島市中区)で続く耐震・リニューアル工事のため設置された塀に22日、工期や趣旨、完成予想図などの説明表示が設置された。市平

全国に寄贈してきた安田女子高との交流が始まった。

「安田女子高の桜のように、皆で力を合わしよう」と呼ぶ

リニューアル工事を行なっています
undergoing earthquake-proofing and renovations

スローフードジャパン
2016年
爛酒コンテスト金賞受賞

おくら